

中野区教育委員会会議録 平成23年第28回定例会

○開会日 平成23年10月14日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前 10時00分

○閉 会 午前 10時28分

○出席委員(5名)

中野区教育委員会委員長	山 田 正 興
中野区教育委員会委員長職務代理	高 木 明 郎
中野区教育委員会委員	大 島 やよい
中野区教育委員会委員	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○出席した事務局職員(10名)

教育委員会事務局次長	村 木 誠
副参事(子ども教育経営担当)	白 土 純
副参事(学校再編担当)	吉 村 恒 治
副参事(学校教育担当)	宇田川 直 子
指導室長	喜 名 朝 博
副参事(知的資産担当)・中央図書館長	天 野 秀 幸
副参事(学校・地域連携担当)	荒 井 弘 巳
副参事(特別支援教育等連携担当)	伊 藤 政 子
副参事(就学前教育連携担当)	海老沢 憲 一
副参事(子ども教育施設担当)	中 井 豊

○担当書記

子ども教育経営分野	落 合 麻理子
子ども教育経営分野	仲 谷 陽 兵

○会議録署名委員

委員長	山 田 正 興
委 員	大 島 やよい

○傍聴者数 1人

○議事日程

[報告事項]

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

- ・ 10 / 1 子ども虐待防止フォーラムについて
- ・ 10 / 2 中野区中学校生徒理科研究発表会について
- ・ 10 / 2 第5回子どものこころの診療医研修会について
- ・ 10 / 5・6 緑野小学校保護者によるパトロールについて
- ・ 10 / 13 谷戸小学校すこやか委員会について

(2) 事務局報告事項

(なし)

中野区 教育委員会
第 2 8 回定例会
(平成 2 3 年 1 0 月 1 4 日)

午前10時00分開会

山田委員長

皆さん、おはようございます。

ただいまから、教育委員会第28回定例会を開会いたします。

本日は、全員出席です。

本日の会議録署名委員は、大島委員にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

それでは、日程に入ります。

<報告事項>

山田委員長

報告事項です。

<委員長、委員、教育長報告事項>

山田委員長

まずは、委員長、委員、教育長報告です。

私のほうから、9月30日の第27回定例会以降の主な委員の活動について一括して報告をさせていただきます。

10月2日日曜日、中野区中学校生徒理科研究発表会がありまして、教育長が出席いたしました。

10月12日水曜日、第4回臨時会が開かれまして、委員全員が出席いたしました。

私からの報告は以上です。

各委員から、以上の報告につきまして補足、質問、ご発言等ありましたらお願いいたします。

私のほうから、少し前になりますけれども、報告をさせていただきます。

10月1日に、日本医師会と東京都医師会が主催いたしました「子ども虐待防止フォーラム in 東京」というのが駒込にあります日本医師会館で開かれましたので、出席をいたしました。これは、「ゼロ歳児からの子ども虐待防止を目指して」ということで、午後2時から16時30分まで、シンポジウム並びに討論が開かれました。

ご承知のとおり、虐待の件数は増加の一途をたどっております。中でも、平成22年度に通告された虐待の中で、東京都は4,450件あるのだそうですけれども、何と0歳児が297件という数に及んでいるのですね。実は、第7次の児童虐待の報告、約1年間の報告の中で、

0歳、特に0カ月0日、要するに日齢0日の子どもの死亡が77人という数に及んでいるのです。これは、一つには、望まない妊娠という背景があるということと、母子手帳が未発行であったり、妊婦健康診査未受診ということで、どうも我々の医療機関にはつながらないケースが多いということでもあります。これに対して何か手だてがないものかどうかということをもメインテーマとして会が開かれたわけです。

新宿・戸山町にあります国立国際医療研究センターの産婦人科の先生からは、飛び込み出産の事例等の報告がありまして、非常に苦慮されているということでもあります。それで、中野区でも取り組みを始めたわけですが、妊娠がわかったときに、専門の機関につながるような、中野区では短冊式のものをつくっていただいています。新宿がいち早くそれをカード式でつくって、例えば、子どもたちが出入りしやすいような漫画喫茶ですとか、そういったところに配布しているということでもあります。中野区では、妊娠反応の検査を取り扱っているOTCなどにも配布していただいて、もし自分で調べて妊娠反応が陽性だったら、そういった専門機関に問い合わせできるようなことのシステムを構築しているのですけれども、まだまだこれがきちんと稼働していない。これは全都的に何かしなければいけないのではないかというような結論でありました。

そのほかには、虐待の気づきということについてお話がありました。

フロアからは、実は虐待を受けた女性という方が質問に立たれました。例えば、今、虐待を受けた方たちが心理相談などをする場合には保険の適用がないのだそうです。そういった方たちは長年にわたって傷を負っている。それに対してきちんとした手当てをしてもらいたいというような悲痛な叫びが場内に響き渡りました。

これは京都で一度開かれたのですが、今後、福岡と札幌ですか、全国を回ってこの「児童虐待フォーラム」を行うということで、国のほうでもそういった施策のための会議が開かれているということでもあります。

10月2日は、厚生労働省と日本小児科医会が開いております第5回子どもの心の診療医研修会。いわゆる児童の心にかかわるドクターの数が少ないということがあって、こういった研修会を開いて、子どもたちの心の研修に寄与するドクターを養成しようというところで、私も今回2回目の参加です。朝の9時から4時までということで非常にタイトなスケジュールでございましたけれども、非常に有意義な会でありました。

1人の方の紹介だけにとどめますが、前に中野区の北保健所で1歳6カ月健診、3歳児健診に携わった小児精神科医でございます。この方は、「発達障害児への具体的対応と関

係者への適切なアドバイス」ということで講演をされました。ポイントは、弱点を修正するのではなく長所を伸ばす、ただこれだけに尽きるということでもあります。発達障害児の方たちというのは、いろいろな病態、例えばADHD、LD、アスペルガーとかいろいろありますけれども、それはスペクトラムであって、それは流れてくるのだと。だから、一つ一つの病態によって違うので、一元的にはそういうことは言えないのではないかということでありました。「ともかく、指示・命令については、言葉を短く、一度に一つにしてください。決して無理強いをしないでください。自己の肯定感をきちんとはぐくむように」ということで、そのような具体的な話がございました。「例えば、『〇〇してください』というのはわかりやすいけれども、『〇〇してはだめですよ』というのはわかりにくい。そういうのは、端的な指示、もしくは私的感覚が非常にたけているので、私的感覚のところでそれをきちんと指示してください」というようなことでありました。一方では、「日本の少年鑑別所の中に多くの発達障害者が含まれてしまっている。こういうことは国にとっても非常に不幸なことではないか」ということでお話がございました。非常にいいお話をお伺いしたと思っております。

もう1点ですが、昨日、私が学校医をやっています谷戸小学校の学校保健委員会——学校医と学校の関係者と栄養士さんとPTAの方たちが一緒になって話し合う会議で、「すこやか委員会」と言っていますけれども、きのうは保護者の方たちが38名ほど出席をされました。私の前に講演された方は——こういう研究所があるのですね。漁港漁場漁村技術研究所。「漁漁研」と言うのだそうですね。この方は、ちょうど私と同じぐらいの年代の方なのですが、要するに魚を通じての食育の話でしたね。小学校6年生までの給食の数は大体1,140回とおっしゃったかな。小学校6年生までに食べる給食というのは、子どもたちが食べる食事の中の17.4%に上っているから、この学校での食育は大切なのだということでした。どのようにして残食率を減らすかとか、そういった試みもやりながら、子どもへの興味を魚を通じてということで、例えば子どもたちの前でサケの解体をしたり。「マグロとかは高くてできない」と言っていましたけれども。たしか、この谷戸小学校の先生方は、栄養士の方は青森まで行ってシジミを採る体験をされたとか、そういったように、先生方にも体験してもらっているということでした。

子どもたちは、魚と言いますと、どうしても切り身しか見ていないので、デパートなどの魚売り場に行って、「こういった魚はどこで採れるんだよ」ということのお話をしなければいけないのではないかなというお話がありました。

例えば体温の話が出て、人というのは体温が36度ぐらいですよ。牛は少し高くて38度ぐらいかな。ニワトリがたしか40度とか42度だったのですけれども、魚というのは体温はどのぐらいかということですね。魚の体温というのは僕も余り知らないのですけれども、水温プラス0.5度だそうです。なので、魚に含まれている脂肪酸は体温が低いから固まらないということですね。そういった手法で子どもたちにわかりやすく講義をしていくということで、谷戸では、食育の中でこういったことに何回か取り組んでいて、子どもたちが魚を上手に食べるようになったというお話をされました。

その後、私のほうから、学校で予防できる感染症のお話と子宮頸がん予防ワクチンの話をしまして、2時間ほどの会議は終わりました。

私からの報告は以上でございます。

では、高木委員、お願いいたします。

高木委員

私は、10月5日の水曜日と6日の木曜日、子どもが通学している緑野小学校の割り当てでパトロールに立ちました。我が家の割り当てが10月3日、4日、5日、6日の4日間なのですが、妻と厳粛な協議の結果、私は月曜日は出張がありましたので、後半が私ということで、半々、フィフティ・フィフティということで快く引き受けました。7時45分から8時15分までの30分間、区立のアポロ園の前の横断歩道に立ちました。緑野小だけに緑色のベストを着まして、棒を持ちまして……。緑野小学校と緑野中学の通学路にもなっていますので、合わせて100人ぐらいですか、安全に横断するようにと。あそこのところは比較的道幅が広い道路で見通しもいいのですが、車の交通量が若干少ないので、スピードを出して通る車が多い。そこが少し危ないのです。毎日通っている自動車の方は通学路だと知っていて、スピードを緩めたり、とまってくれたりするのですね。ただ、横断歩道のすぐそばにとめる車があって、私などは行って、「済みません。ここは通学路なのでどいてください」と言うと、「済みません」と言ってどかしてくれるのですが、お母様方が立つとなかなか言いにくいので、そこら辺はちょっと大変かなと思います。おおむね皆さん、「おはようございます」と言うと、小学生も中学生もあいさつを返してくれるのですが、中学生のほうのはきはきしていたような気がします。ちなみに、緑野小学校ではあいさつ運動にこれから力を入れていくということですので、次のときに期待したいと思っています。

私からは以上です。

山田委員長

では、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

どこかに出かけたことではなくてテレビを見た話で恐縮ですけれども……。

3日ぐらい前でしょうか、「クローズアップ現代」で放射能のことをやっていました。学校で放射能をどう教えるかというのは、来年から教育課程上必要になってくるわけですが、そう言っていられないで前倒しでもうやっている学校もあるということで、中野五中の区中研の研究会の研修がちらっと映ったのです。ああ、やっているのだなという気がしまして。その中で、今、文部科学省も資料集をつくっているらしいというコメントもありましたけれども、中野区でも、小教研、中教研、理科部会、いろいろありますので、そういうのをやっているのかなということをちょっと気にしながら見ました。文部科学省でどんなものをつくってくるのか楽しみにしています。

それから、きのうのNHKの夜の「ニュース845」で中央中学校での自転車の乗り方の安全についてというのをやっていました。ご存じだと思うのですが、今、ブレーキのない自転車に公道で乗るのは危険だということで、取り締まり等をかなり強化しているわけですが、若者にはやっていると。それから、ひったくりもありますのでということで、子どもたちが楽しそうにスタントマンの演技を見たりということで、ちらっと映りました。

それから、2日前かな、「歴史秘話ヒストリア」で井上円了をずっと特集していました。東洋大学と哲学堂も出てきて、こういう人ですよ、妖怪を研究した人ですよと丁寧にやっていたので、中野に関係あるものが三つ続いたなと思いながら見ました。

以上です。

山田委員長

では、大島委員、お願いいたします。

大島委員

先ほどの委員長の全体報告の中で出ていました10月2日の中野区中学校生徒理科研究発表会なのですが、私も教育長と一緒に出席してまいりました。大変おもしろく、また興味深い発表で、私も感心してばかりだったのですが、ことしの震災を受けてなのか、震災に直接、間接に関係あるようなテーマが多くて……。例えば「放射能セシウムについて」などという調べ学習もありましたし、「液状化現象について」とか、「夏を涼しく過ごす節電の工夫」とか、「太陽熱を使った調理の研究」とか、そういう震災とか節電とか

に関係のあるものが多かったのですが、それに限らず、皆さんの研究がすごくおもしろくて、中には、「うちのプードルとチワワがなぜ仲が悪いのか」という興味深い研究。一緒の部屋にしたり、トイレを共同にしたりとか、いろいろ場面設定をやって、こうだった、ああだったというような研究をしたりとか。

優秀賞の1番に選ばれたのは、「どのくらいの塩分濃度までなら植物は育つのか」という九中の方の研究だったのですが、これなどは本当に感心しました。食塩を1%とか3%とか、幾つも場合を分けて、その中で三つか四つの種類の植物——コマツナとかいろいろなものがあるのですが、そういう種をまいて、発芽したかどうか。それから、発芽しても、その後育ったかというのをずっと観察して、その結果、何%までなら育つことは可能だけれども、それより濃くなるとだめだとか、そういう実験結果に基づいて結論を出したりしていたのですけれども、これなどは、実際の農業の研究にも将来つながっていくような実践的なテーマでもありますし、今回の震災の津波の被害とか、そういうことが研究の契機になったらしいのですけれども、大変にすばらしい研究だと思いました。

それから、優秀賞の2位になった七中の「光の色と植物の成長」というのも非常に興味深く、植物が発芽したり育ったりするにはどういう色がいいのか悪いのか、赤とか黄色とか光の三原色とかによってどういう影響があるのだろうかというようなことを調べたものとか。

そのほか、表面張力についての研究とか、夏の暑さをしのぐためのいろいろな工夫を紹介するものとか、いろいろすばらしい研究があったのですけれども、皆さん、自分でやってみてというのがすごいなと思いました。夏休みとか、もちろん平日にやった子もいるのですけれども、そういう設定をして、実験道具などをちゃんとそろえて、それで観察をして、写真を撮ったりとか、そういうことを定期的にやっていったりとか、その地道な努力もすばらしいと思いますし、自分で実際にやってみて結果がこうだったというのを体感するというのもすごく力になっただろうし、中学生とは思えないような、学者の卵みたいなすばらしい生徒たちだなと思いました。私は自分の中学時代を振り返っても、こんなことをこんな手間をかけて自分で地道にやるなどということはなかったものですから、感心しきりでございました。

ということで、私からの報告は以上です。

山田委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

私のほうは中学校生徒理科研究発表会についてなのですけれども、大島委員に詳しく紹介していただきましたので……。

一般の方にお呼びかけをして、発表形式でやるというのはことしで2年目なのです。去年は呼びかけ方が多少少なくて、発表する生徒の保護者の方しか参加していなくて、発表が終わるとお帰りになってしまったりしたのですけれども、ことしは結構PRを工夫して、かなり大勢の方がおいでになって生徒の発表を見ていただいたので、こういうことをやっているのだというPRをこれからもしていきたいなというふうに思いました。

2点目として、飛鳥馬委員がおっしゃった自転車の教室の話なのですけれども、実は夏休み——夏休みだけではないのですけれども、ここのところ、子どもたちの自転車にかかわる事故が非常に目立ってきていまして、子どもたちが集団で乗っていて事故に遭うということもあるのですけれども、夏休みには、子どもが自転車に乗っていて高齢の方にぶつかってしまって、その方がかなり重篤なけがをされたというようなことがありました。自転車に乗っていることによって、被害を受けるだけではなくて加害者になる可能性もあるのだということもあるので、指導室も注意を喚起していますけれども、校長会の中でも再度子どもたちにそうした教育を徹底するようという指導をしているところで、その一環で中央中も教室を持たれたというふうに思っています。そういう状況がございますのでご報告いたします。

山田委員長

では、各委員の報告につきまして何かご質問とかございましたらお願いいたします。

(発言する者なし)

山田委員長

大島委員から報告がありました理科発表会の中の塩分の話でしたけれども、先ほどの漁漁研の方のお話でちょっとおもしろいものがあって……。

私たち人間が海から生まれた証拠としては涙があるのだよという話です。涙というのは食塩濃度が0.9%なのです。これは太古の海の塩分濃度だそうです。今はいろいろと海に流れてくるので、大体3.8から3.9%。なので、その植物が育つか育たないかというのは、太古の海を思い起こせばという一つのヒントになるかなと今思い出しました。補足いたします。

何かご質問、ご意見ございませんか。

大島委員

山田委員長から報告がありました「子ども虐待防止フォーラム in 東京」についてのお話なのですが、その中で、特に生まれたての赤ちゃんとかが命を落としたりすることも多いと。妊娠中からの発見というのですか、望まない妊娠に対する対処みたいなことのお話がちょっとあったと思うのですが、結局、そういう場合には、専門のお医者さんのところとかに行って、望まない出産をしないようにするということをもっとPRしないとだめだということになるのでしょうか。

山田委員長

根はなかなか深くて、望まない妊娠というものをなるべく避けなければいけないというのは、それこそ生殖的な教育のところ立ち返らなければいけないことが一つありますが、もう一つは、どうしよう、どうしようと思っているうちに臨月を迎えてしまう。そういったときに、いろいろな相談機関があるんだよとか、今は妊婦健診も補助制度がありまして、そんなにお金がかからなくても受けられる。ただ、自分が親として産みたいという意思があるかどうかというのが大切なことではないかと思うのです。もう一つは、サポートしてくれる夫、もしくはお父様になる方の協力とか、1人で悩まないでほしいなというのが大きな視点ではないかなと。ただ、産む、産まないのことはもちろん個人の判断になってしまうかもしれませんが、いろいろと社会的に助けることができるよということがある。突き詰めていくと、これは先生にもお助けしていただかなければいけないのですが、里親制度とかそういうことにも絡んでくるのかなと。例えば熊本に「赤ちゃんポスト」というのがつくられましたよね。恐らく、そんなにたくさんは入らないのではないかと思ったら、「赤ちゃんポスト」の中にはお子様が結構預けられていて、「申しわけない、育てられないんですけど」というメッセージがあったりする。こういうところも日本の中で起きている。それは全体としてどのようにしていくのか。授かった大切な命をどのように世に出していくかということも大きな視点ではないかなと思います。ただでさえ日本は出生数も少なくなっているということではないかなと。根は非常に難しい話ですが、何かアクションをしないといけないかなということ。

あともう一つは、今までは事故死で処理されたものの中にはもしかしたら虐待がということもあるかもしれません。それこそ、それは医療機関の気づきではないのかなということも提言されました。実は、1歳までの乳児死亡というのは病気が多いのですが、1歳以上は事故死が多いのです。世界的に言うとアメリカなどは虐待死が一番多いわけですね。

いうことの現実があるかと思えます。

あと、教育長からあった自転車の話は、国民全体としての乗り方のモラルですね。朝、この区役所の前を歩いてくると、すごい勢いで走っている方たちをお見受けします。5分早く起きていればと思うのですが、子どもたちもそういった背中を見ているのでということがあるのかなと。だから、子どもたちだけに限らないのかなというふうに思いますし、あと、交差点の中でタクシーをとめると、タクシーが急に車線変更するために自転車とぶつかるとか、交通のモラルといいますか、その辺はみんなで高めていかないといけないのではないかなと思います。でも、日本は、ほかの国に比べればその辺はまだまだしっかりしているのかもしれませんが、それ以上に事故が多くなっているということではないかと思えます。

山田委員長

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

山田委員長

ご意見がなければ、事務局の報告に移ります。

<事務局報告事項>

山田委員長

事務局報告はございますか。

事務局

ございません。

山田委員長

以上で、本日の日程を終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第28回定例会を閉じます。ありがとうございました。

午前10時28分閉会